

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

私たちの暮らしを守る森林環境税

白杵市立西中学校

三年 玉田 ちひろ

あなたは「森林環境税」を知っているだろうか。

私は学校の授業で、西中学校の学校林がある白杵市の鎮南山に行った。そこで私たちは、学校林を百年続く森にするためにどんぐりの苗を植樹したり、鹿や猪などの獣対策をしたり、学校林の歴史を調査したりした。どんぐりの苗を植樹するときは、根っこが絡まないようにタオル一枚分ぐらいの間隔をあけて丁寧に植樹した。学校林の歴史を調査する中で、西中の学校林は約七十年前からずっと受け継がれてきたことがわかった。私はそれまで森林に対してあまり興味がなかったが、初めて学校林に行つて、森林は生態系が豊かで面白いと思うようになった。

森林は、木材や椎茸生産のほか、水源のかん養や空気の浄化、土砂災害の防止、地球温暖化の防止など、多くの役割を果たしている。県では、「森林環境の保全」と「森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成」のため、平成十八年度から県民税の特例として「森林環境税」を導入した。現在、大分県では、この大分県森林環境税を活用して、県民生活と自然環境を守る森林づくりのために、河川沿いの人工林整備や荒廃竹林の整備に取り組んでいる。また、森林資源の循環利用による地域活性化のために、林業適地への再造林を支援したり、公共施設の木造、木質化に取り組んでいる。その他にも、森に触れ楽しみ、森林づくりを支えるために、森林環境教育の推進や緑の少年団活動の支援を行っている。

一方、令和六年度から国の森林環境税の徴収が始まる。国の森林環境税は、パリ協定の枠組みの下における我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から創設されたものである。徴収より前に、令和元年度から市町村に譲与され、市町村がそれぞれ独自に活用している。白杵市の使い道を調べると、森林整備のための調査や木材を使った普及活動、また林業の専門員を雇っていた。

この二つの森林環境税は二重負担になると否定的な意見もある。しかし私は、二つの森林環境税は目的が違い、どちらの税も効率的に使うことで、これからの大分県の森がしっかりと守られていくと思う。

まだ森林について知っている人は少なく、興味がある人がほとんどいないという課題がある。学校や森林組合などで森林に関する仕事をしている人に話を聞いて、興味関心を持つことが大切だと思う。そして、これから私たちは学校林を百年続く森にするために、もっと詳しく森林について勉強をし、自分よりも若い人たちと一緒に森林を守る活動を行っていきたい。この活動を広げて、SDGsの達成に大切な森林の役割をしっかりと発揮させるため、これからも森林を大切にしていきたい。